

人権に関する市民意識調査

－ 報告書 －

平成 23 年 3 月

あま市

はじめに

人権は、だれにとっても身近で大切なもの、日常の思いやりの心によって守られるものです。しかし、現実の社会では、なお同和問題や女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人等に関わる人権課題は多く、特に最近では、インターネット等による人権侵害やドメスティック・バイオレンス(DV)、児童虐待は増加傾向にあり、日常の中にあるさまざまな差別や人権侵害の現実には、市民一人ひとりがどう向き合うかが問われています。

本市は、平成22年3月に、3町（七宝町、美和町、甚目寺町）が合併し、「あま市」として新しいまちづくりをスタートしましたが、旧甚目寺町で取り組んできた、さまざまな人権にかかわる施策を引き継ぎ、市の最重要課題の一つとして位置付け、さらなる推進に取り組んでまいりたいと考えています。

このような中、新たにあま市民の皆様が日常生活の中で、人権問題についてどのように感じ、また、考えておられるかを把握するため、平成23年1月、「人権に関する市民意識調査」を実施したところであり、この報告書は、その調査結果を取りまとめたものです。

今回の調査結果を、現代の人権を取り巻く環境や価値観を踏まえた、市民と行政との協働による計画づくりや、今後の人権行政の推進等を図るための基礎資料として活用してまいりたいと考えております。

おわりに、この調査にあたりご協力をいただきました市民及び関係者の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

あま市人権施策推進本部長

あま市長 村上浩司

～ 目 次 ～

I	調査の概要	1
II	回答者の属性	3
	1. 性別	3
	2. 年齢別構成	3
	3. 居住小学校区	4
	4. 最終学歴	5
	5. 職業	6
	6. 未既婚	7
	7. 配偶者の職業	8
	8. 同居末子の学齢	9
	9. 同居家族構成	9
III	調査結果	10
	【1】人権に関する市民意識調査	10
	1. 基本的人権の尊重意識	10
	2. 国民の人権意識	12
	3. 人権尊重について	14
	4. 人権侵害や差別について	16
	5. 自分の人権が侵害されたと思ったこと	18
	6. 人権を侵害されたと思った場面	20
	7. 人権にかかわる重要と思う問題	22
	8. 人権にかかわる宣言や条約、法律などの認知	24
	9. 女性に関する人権上の問題	26
	10. 子どもに関する人権上の問題	28
	11. 高齢者に関する人権上の問題	30
	12. 障がいのある人に関する人権上の問題	32
	13. 日本に居住している外国人に関する人権上の問題	34
	14. エイズ患者・H I V感染者に関する人権上の問題	36
	15. H I V感染者とのつきあいについて	38
	16. ハンセン病患者（元患者）に関する人権上の問題	40
	17. インターネットによる人権侵害の問題	42
	18. インターネット上での人権侵害について	44
	19. 結婚時の家柄や血筋の問題について	47
	20. 結婚時の家柄や家族状況を調べることについて	50
	21. 企業の採用選考時の身元調査について	53
	22. 「同和問題」「部落問題」等の認知	56
	23. 同和地区や同和問題について、はじめて知った時期	59
	24. 同和地区や同和問題について、はじめて知ったきっかけ	61

25. 同和問題についての教育や学習の経験-----	63
26. 同和問題・差別問題の有無-----	65
(1) 恋愛-----	66
(2) 結婚-----	68
(3) 就職-----	70
(4) 学校・保育所などの教育現場-----	72
(5) 日常の付き合い-----	74
(6) インターネットの表現や書き込み-----	76
27. 同和地区出身の人とのつきあいについて-----	81
28. 子どもの結婚相手が同和地区出身者である場合-----	84
29. 同和地区の人との恋愛や結婚について-----	87
30. 同和問題の解決についての考え-----	90
31. 人権が尊重される社会実現に向けた必要と思う取り組み-----	93
32. 人権問題の啓発活動について-----	95
(1) 人権問題についての啓発活動への参加・認知状況-----	95
(2) 講演会、研修会、シンポジウムへの参加状況-----	97
(3) 啓発イベントや企画展示への参加状況-----	98
33. 効果的だと思う人権問題に関する啓発活動-----	99
34. 人権問題に関する施策の認知状況-----	101
【2】男女共同参画に関する市民意識調査-----	103
1. 男女の地位の平等意識-----	103
2. 男女が平等に協力し合っていくため大切と思うこと-----	107
3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について-----	109
4. 日常的な仕事-----	111
(1) 食事のしたく-----	112
(2) 食事の片付け-----	113
(3) ごみ出し-----	114
(4) 掃除-----	115
(5) 洗濯-----	116
(6) 日常の買い物-----	117
(7) 子どもの世話-----	118
(8) 親の介護-----	119
5. DV（ドメスティック・バイオレンス）の体験-----	120
6. DV（ドメスティック・バイオレンス）の体験内容-----	122
7. DV（ドメスティック・バイオレンス）についての相談状況-----	124
8. DV（ドメスティック・バイオレンス）についての相談先-----	126
9. 相談できなかった理由-----	128
10. 必要と思うDV（ドメスティック・バイオレンス）への対応-----	130
11. 「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく」という考えについて-----	132
12. 学校教育で力を入れるべきこと-----	134
13. 安心して子どもを生き育てるため必要と思うこと-----	136

14. 子どもへの虐待について-----	138
15. 子どもへの虐待防止に必要と思うこと-----	140
16. 女性が職業（仕事）をもつことについて-----	142
17. 女性が安心して働き続けるために必要と思うこと-----	145
18. セクシュアル・ハラスメントについて-----	147
19. セクシュアル・ハラスメントをなくすために必要と思う対策-----	149
資料／調査票-----	151

I 調査の概要

【調査目的】

本市では、人権尊重のまちづくりに向け、市民と行政が一体となった推進体制を強化し、市民の人権意識を高め、あらゆる差別や偏見がなくなる地域社会を目指して、「人権に関する行動計画（仮称）」の策定を平成 23 年度予定している。

このたび、今後の人権教育や啓発、及び計画の策定、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進める上での基礎資料とするため、「人権に関する市民意識調査」を実施した。

【調査対象】

あま市に居住する満 20 歳以上の市民

【標本抽出方法】

住民基本台帳から無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査期間】

平成 23 年（2011 年）1 月 6 日（木）～1 月 25 日（火）

【回収結果】

配布数----- 4,000 件

有効回収数----- 1,774 件

有効回収率-----44.4%

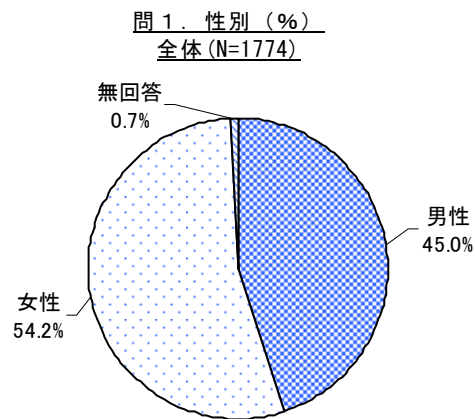
【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第 2 位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- (2) 2 つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示す N は、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数ベースを示す「全体」を「N」、該当数ベースを「n」で表記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記し、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は表記していない場合がある。

- (6) 数表中の「網掛け」は、各クロス集計（《性・年齢別》など）において最も高い割合を示している。（例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に網掛け。）但し、回答割合が10%未満の項目、及びn数が10未満の項目については網掛けは除外している。また数表中の値はすべてパーセンテージを示している。
- (7) 時系列比較においては、平成21年度に実施した同調査（甚目寺町／人権に関する町民意識調査）（以下「平成21年度調査」と表記）との比較をしている。
- (8) 内閣府や愛知県との比較においては、設問や選択肢等が一致していない場合があり、図表等に完全な比較を表せない設問もある。
- (9) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

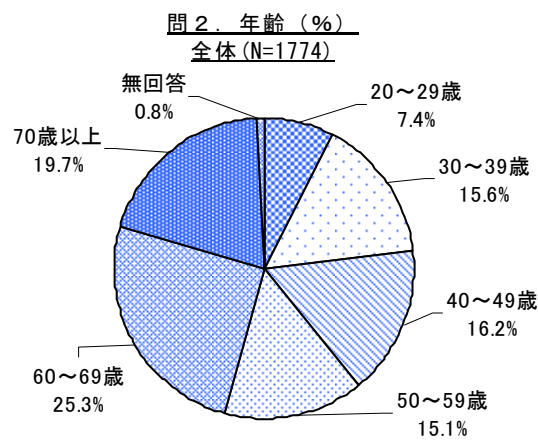
II 回答者の属性

1. 性別



性別構成比は、女性 54.2%、男性 45.0%と女性が過半数を占める。

2. 年齢別構成



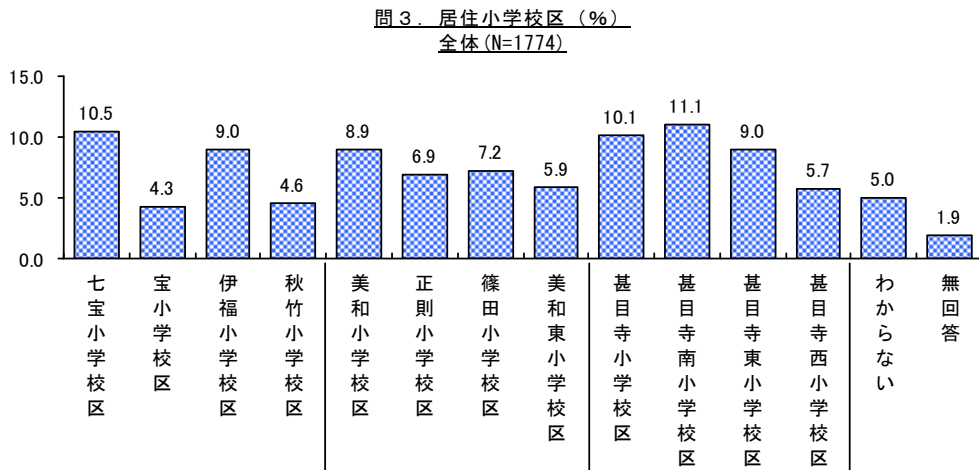
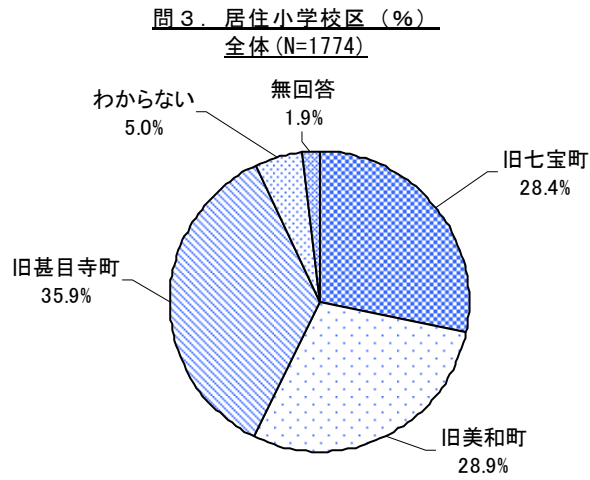
問2. 年齢 (%)

		20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無回答
凡例								
	全体 (N=1774)	7.4	15.6	16.2	15.1	25.3	19.7	0.8
性別	男性 (n=799)	6.9	13.5	14.5	15.4	26.8	22.7	0.3
	女性 (n=962)	7.9	17.3	17.9	15.0	24.2	17.2	0.6

年齢別構成は、「60~69歳」が 25.3%で最も多く、次いで「70歳以上」(19.7%)、「40~49歳」(16.2%)の順となっている。

《性別》では、女性に比べて男性で 50歳以上の占める割合が多くなっている。

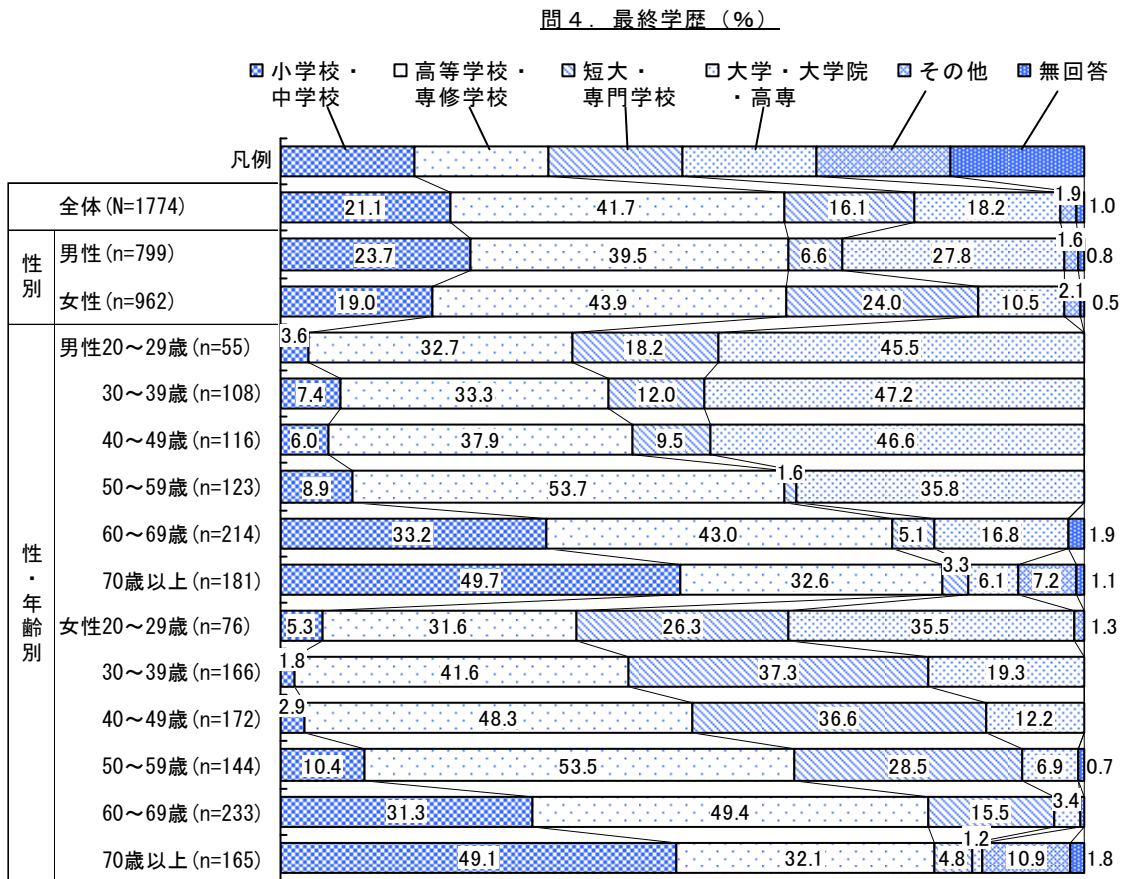
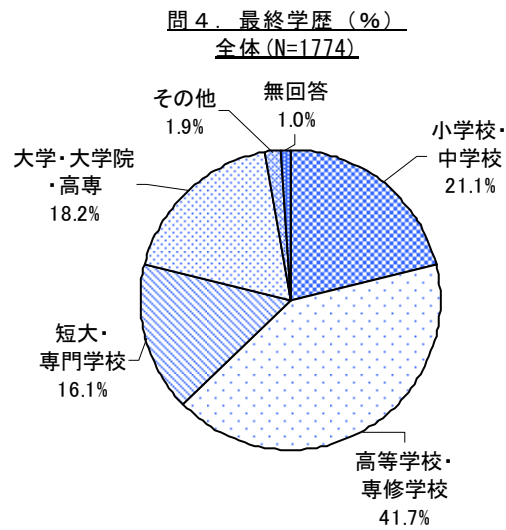
3. 居住小学校区



居住地について旧町別で見ると、「旧甚目寺町」(35.9%)、「旧美和町」(28.9%)、「旧七宝町」(28.4%)の順となっている。

居住小学校区は、「甚目寺南小学校区」が11.1%で最も多く、次いで「七宝小学校区」(10.5%)、「甚目寺小学校区」(10.1%)の順となっている。

4. 最終学歴

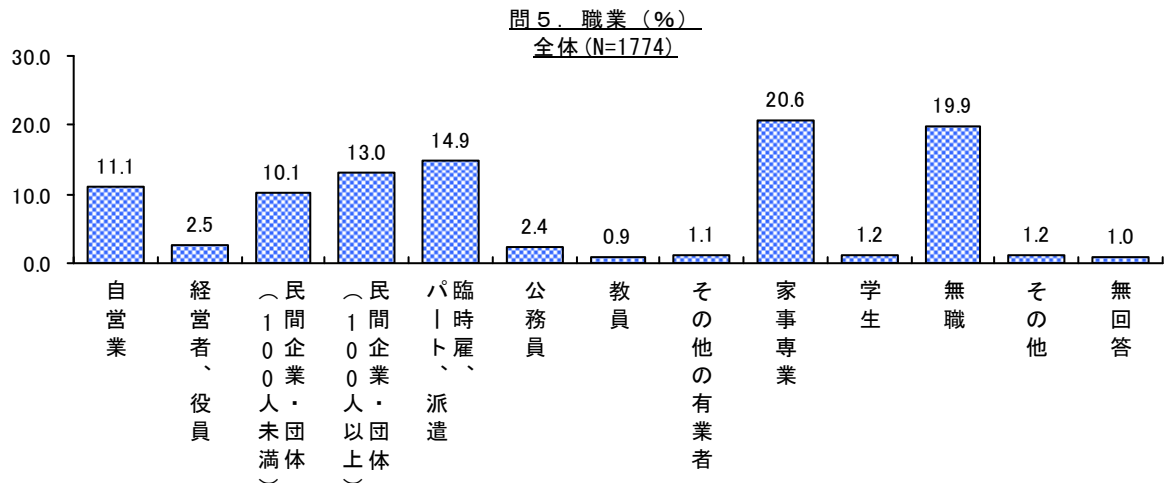


最終学歴は、「高等学校・専修学校」が41.7%と最も多く、次いで「小学校・中学校」(21.1%)、「大学・大学院・高専」(18.2%)の順となっている。

《性別》では、女性に比べ男性で「大学・大学院・高専」が多く、女性で「短大・専門学校」が多くなっている。

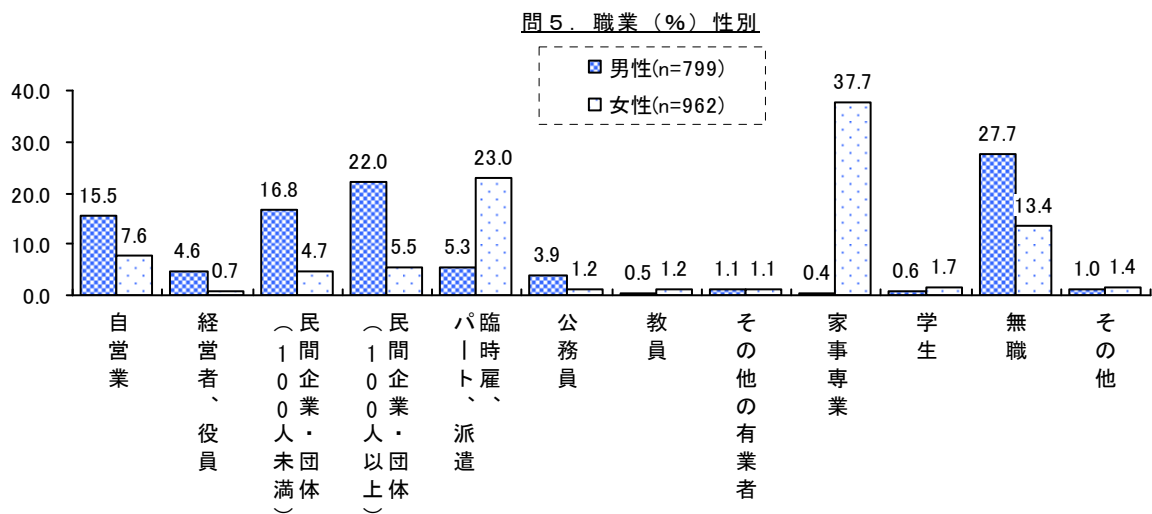
《性・年齢別》では、男女とも年齢が上がるにつれ「小学校・中学校」が多くなっている。

5. 職業



注: 次ページ以降に掲載する図表(グラフなど)については、以下のとおり文言を略記している。
「自営業(農林、商工サービス、建設業、自由業などの事業主及び家族従事者)」→「自営業」
「民間企業・団体の経営者・役員」→「経営者、役員」
「民間企業・団体(従業員数100人未満)の勤め人」→「民間企業・団体(100人未満)」
「民間企業・団体(従業員数100人以上)の勤め人」→「民間企業・団体(100人以上)」
「無職(求職中や定年後を含む)」→「無職」

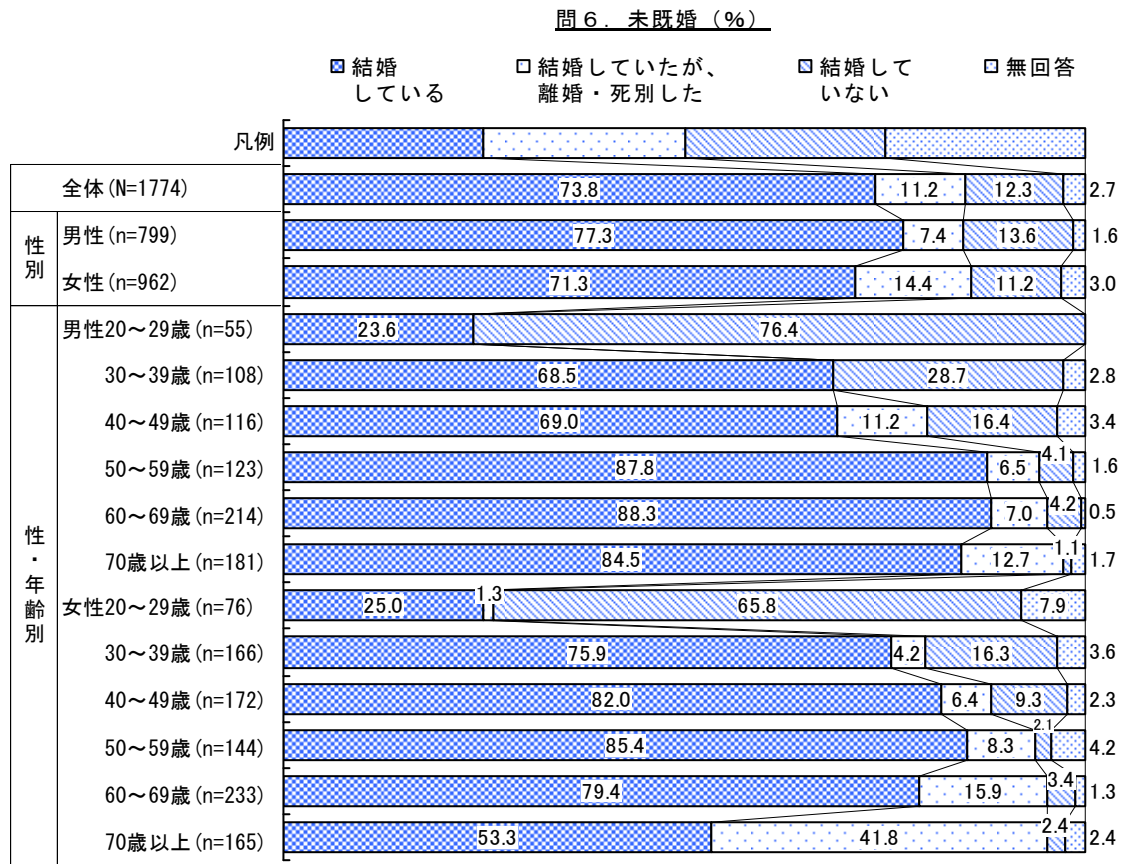
職業は、「家事専業」が20.6%と最も多く、次いで「無職」(19.9%)、「臨時雇、パート、派遣」(14.9%)の順となっている。



注: 図中では「無回答」は表記していません。

《性別》でみると、女性で「家事専業」「臨時雇、パート、派遣」が男性に比べ大きく上回り、男性は「民間企業・団体(100人以上)」「民間企業・団体(100人未満)」で女性に比べ多くなっている。

6. 未既婚

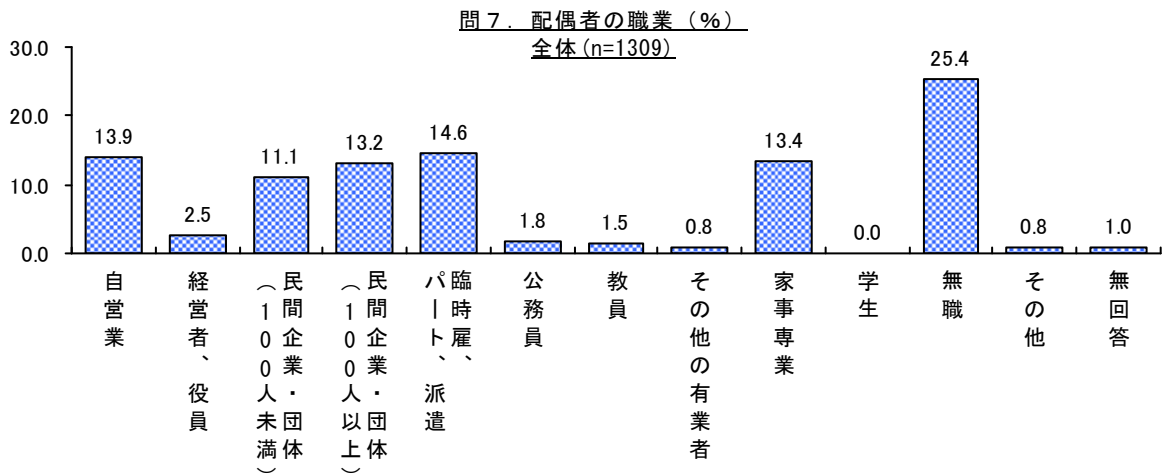


未既婚については、「結婚している」が73.8%と最も多く、「結婚していたが、離婚・死別した」(11.2%)を合計した『既婚者』は全体で85.0%を占めている。「結婚していない」は12.3%であった。

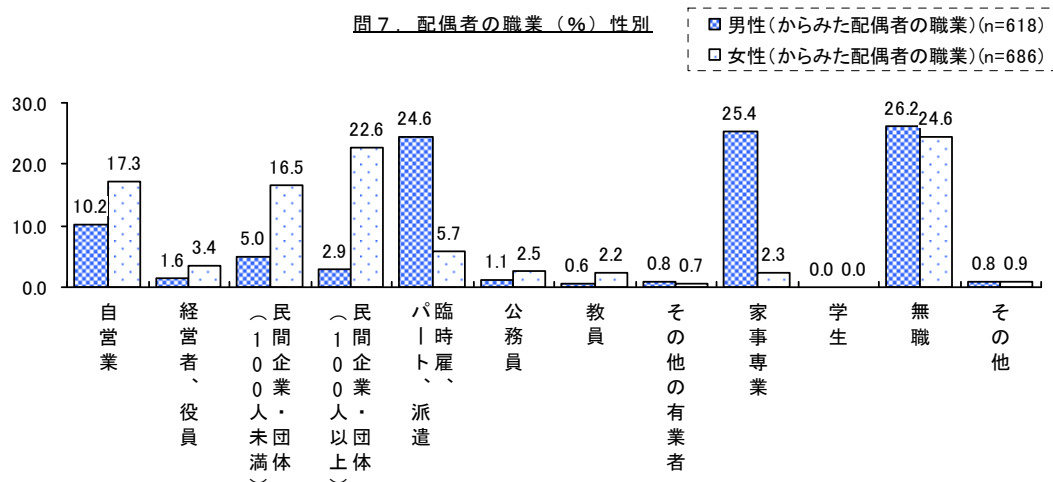
《性別》では女性に比べ、男性に「結婚していない」がやや多い。

《性・年齢別》では、男女ともに年齢が若い層ほど「結婚していない」が多い傾向にあり、特に男性で顕著である。男性20歳代では「結婚していない」が76.4%を占めている。一方、女性70歳以上では他の年齢層に比べ「結婚していたが、離婚・死別した」が多い。

7. 配偶者の職業



配偶者の職業については、「無職」が25.4%と最も多く、次いで「臨時雇、パート、派遣」(14.6%)、「自営業」(13.9%)の順となっている。

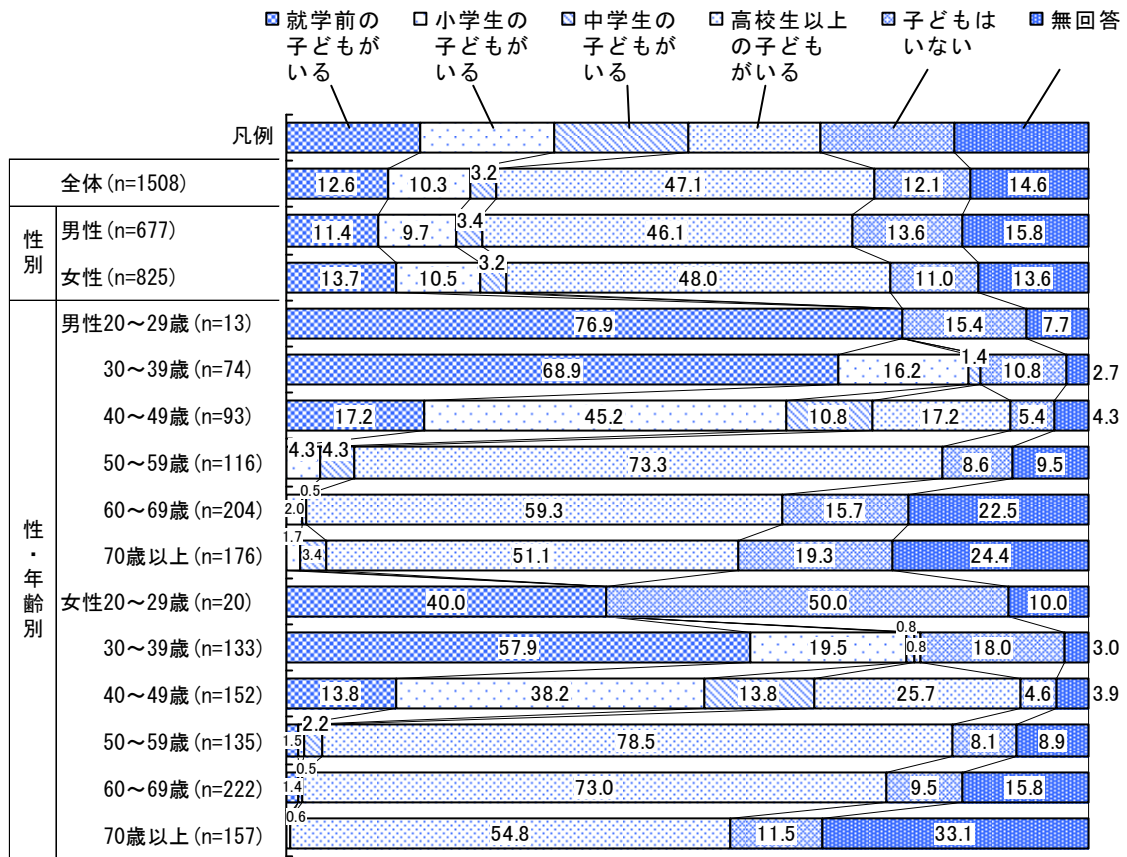


注: 図中では「無回答」は表記していません。

《性別》では、男性(からみた配偶者の職業)で「家事専業」「臨時雇、パート、派遣」が女性(からみた配偶者の職業)を大きく上回り、女性(からみた配偶者の職業)は「民間企業・団体(100人以上)」「民間企業・団体(100人未満)」で多くなっている。

8. 同居末子の学齢

問8. 同居末子の学齢 (%)

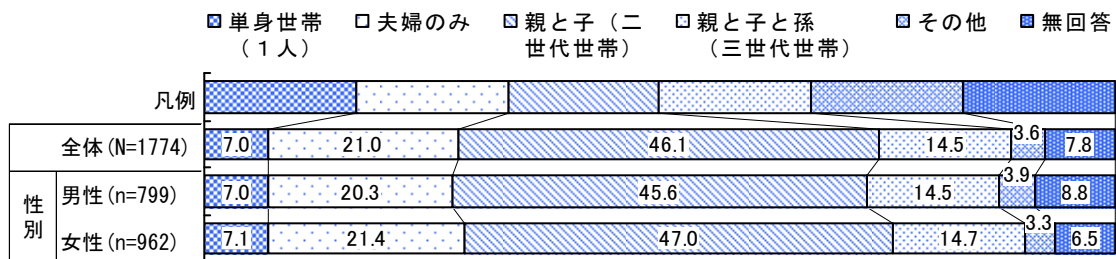


同居末子の学齢については、「高校生以上の子どもがいる」が47.1%と最も多く、「無回答」を除き「就学前の子どもがいる」(12.6%)、「子どもはいない」(12.1%)の順となっている。

《性別》での大きな差はみられないが、《性別・年齢別》では、男女ともに20歳代及び30歳代で「就学前の子どもがいる」が多く、50歳代で「高校生以上の子どもがいる」が他の年齢層に比べ多くなっている。

9. 同居家族構成

問9. 同居家族構成 (%)



同居家族構成は、「親と子 (二世世代世帯)」が46.1%と最も多く、次いで「夫婦のみ」(21.0%)、「親と子と孫 (三世世代世帯)」(14.5%)の順となっている。

《性別》での大きな差はみられない。